

社会福祉法人悠和会（花巻市）

経営概要 :米7ha、林檎80a、野菜60a、食品加工、社会福祉法人として高齢者介護、障害者支援施設を運営。



[6次産業化総合化事業計画について]

テーマ :りんごを活用した無添加・果汁100%のシードル（ノンアルコール）及びジュースの開発並びに加工場整備と販路開拓

事業概要 :当会の生産しているりんごを活用した加工品（シードル（ノンアルコール）、ジュース）を製造し、ネット販売及び福祉関係のルートを活用した販売等に取り組むことにより、当会における農業経営の安定化を図る。また、福祉施設と農業を結び付けることにより、障がい者の所得向上と地域農業との連携を目指す。

①取組の経緯

- 平成16年4月から、就労支援の一環として米、りんごのほか水耕栽培で葉物野菜を生産。近隣のりんご園は高齢化が著しく、現状維持が困難な人たちが増えているので、借り受けて生産拡大を図ることとしていた。
- 販売実績は順調に伸ばしていたが、規格外りんごの活用が課題となっていた。そこでジュースに加工したが、競合品が多いので差別化するために新しい飲料開発をしたいと考え、アルコール1%未満のシードル、無添加・果汁100%ジュースを開発、販売する6次産業化総合化事業計画を策定し、平成26年2月に認定を受けた。

②課題

- ノンアルコール飲料の市場はまだ小さく、開拓の余地があるので、自社販路の拡大と安定化を図りたい。
- ノンアルコールのシードルという珍しい商品であるため、商品価値の伝達、認知してもらう方法を模索中。

③課題解決の方法

- 催事等に参加し、試飲機会を増やして、色、味、香り、清涼感をPRし、既存ジュースとの違いや飲み方提案を積極的に行った。

④取組の効果

- 首都圏等でとても好評であり、今後商談が本格化する見込み。実際の販売は始まったばかりなので、随時支援等受けながら確実に販路を開拓していく予定。

⑤取組のポイント

●価値の創出と見合った販路選定

→6次産業化商品はコスト高になりがちだが、だからこそ6次産業化でしかできない価値を創出し、さらにそれに見合った販路を開拓して消費者に届ける。

●他分野・関係機関との連携

→生産者が6次産業化を進める上で重要なのは協働である。生産から販売までを一貫して一人で行うのは難しい。各種の専門分野と関係機関との連携が成功のカギである。

